

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0673000683		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホームみかわ		
所在地	山形県東田川郡三川町大字青山字箴元 22-1		
自己評価作成日	平成22年 7月 10日	開設年月日	平成17年 9月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目 3-31		
訪問調査日	平成 22年 8月 4日	評価結果決定日	平成 22年 9月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、地域行事への参加回数を増やしております。色々な場所に出掛けて地域の住民とふれあうことを大切にしています。こちらから出て行くことにより、利用者や職員を多くの住民に知って頂き、互いに理解を深めていこうと努めています。今は地域の多くの方々から声を掛けて頂き、活動の場も広がってきています。今年初めて小学生の校内相撲大会を見せて頂き楽しい時間を過ごしました。個々の地域での暮らしの継続を大切にしたいと努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざした関わりの中で、現状に留まらず、時代と共に日々進化していきたいと、力強く語られる中で、職員育成においては、管理者が中堅を育て、中堅が新人を育てることのチームワークの良さがまさに利用者への細やかで行き届いたサービスに大きく繋がっている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人達との交流を楽しみたいという事業所の理念を管理者と職員が見える所に掲げ、日々の事例が理念に即しているかを職員で話し合っています。	3つの項目が掲げられている理念の中から「お互いに支え合う安らぐ生活」は新人育成上、個人差がある中で職員同士が「おたがいさま」でなければならず、この事業所の空気間(利用者と職員間)をくずさないことを根底におき実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭り・運動会応援・小学校学校祭に招待頂いたり、地域主催の音楽会・冬祭り等参加し楽しんだり、地域の自主防災会に参加したりして交流しています。	地域の一員であることを自覚してもらう為にも、担当職員には行事や他の事に関して計画時から交渉全てにわたり関わってもらい、次回に繋げる為に修了後の礼状書き等しており、地域と共に歩いていることが実感できるところである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	24時間職員がいることや高齢者向けの設備が整っていることを活かして頂くために、地区の子供110番連絡所や災害時避難場所を引き受けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者や施設の状況、活動内容を報告し、意見として出された検討課題については次回までに検討あるいは改善した内容を報告し、皆さんの意見を活かすように努めています。	定例である運営推進会議でメンバーからの声掛けに依り、「三川町高齢者の権利を考える研修会」に参加した折、虐待防止に関連した寸劇等があり、活動内容の1つとして興味深い報告となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと町の福祉課は同じ所にある出向くことが多い為、随時、互いに情報交換や相談をしています。	行政との連携がうまくできており、催しへの参加や歯科医院からの口腔ケアの研修への誘い等も、直接来所され手渡ししていて、相互関係が良好である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束はしておりません。	事例を学びながら、あってはならない事を職員間で共有できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の概要や対応、虐待事例を学び防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護の内容や後見制度について、事例をとおして知識を得ています。ホームに入所されてから権利擁護を利用して頂いている方もおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはサービス内容のみならず、利用者や家族の疑問や不安のないように丁寧に説明しています。退所の際にはその後の支援事業者との連携を密に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に家族の気付きや不満など、何でも言っていただきたいとお話しています。その後も利用者・家族と職員や管理者が気軽に要望を言い出せる関係づくりに努めています。	共同生活の中で、利用者・家族等との関わりを大切にしながら、職員は常に利用者の代弁者と考え、以前は利用者と共に「実家巡り」を行ない、各自の喜びの表情や声を忘れることなく今日に繋いでいる。	
11		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で職員の意見や要望を聞いています。日々の気付きや意見がある場合も皆と検討し、取り入れていくようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員については人事考課制度を取り入れることにより、努力や実績を評価する機会を設けています。臨時職員、非常勤職員については管理者より勤務態度などを聞き評価につなげています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に出来る限り多く参加するようにしています。介護関係の資格取得を奨励し、法人内での勉強会実施や資格試験日への配慮をしています。	日々の関わりで職員一人ひとりの意識の差も生じるが、法人内外の研修や資格取得への積極的な配慮もあり、同時に社会生活における人としてのルール、チームワークを重視した取り組みができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に入会し、他の事業所と情報交換することによりサービスの質の向上に努めています。	多忙な中で目標達成計画に掲げた全職員が他事業所に体験実習に行くことにより、自他共に事業所の長・短所を理解し、より一層サービスに繋げていきたいと考えている。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や事前面接の際に本人の不安や希望を十分にお聞きしています。出来る限り事前の施設見学をして頂き、安心して利用していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族の現在に至るまでの生活状況と今困っていること、不安など相談内容を十分にお聞きし、どのような支援が出来るか時間をかけ相談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談時に本人と家族の置かれている状況をお聞きし、医療や多種の介護サービスを含めた今直ぐの支援を検討し説明しています。他のサービスへの紹介もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員同士が互いに支えあうことで安らぐ生活が送れるように「生活を共に楽しみましょう」を実践するよう努めています。畑作りや料理など利用者から教えて頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活状況や本人の現在の心境の報告を多くして情報の共有に努めています。家族の協力で利用者の精神安定を図れるように努めています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の花を採集したり、馴染みの理容室を利用、又、友人と居室でおしゃべりするなど、居宅での生活スタイルを大切に過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内外での行事参加や日頃の生活の中で利用者が交流できる機会をつくって、互いに支えあう関係を築けるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も医療機関や他の施設、居宅支援事業所と情報交換し、介護サービスが順調に進むように支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で触れ合う機会を多くし、希望や思いを把握するように努めています。心地良いと感じているか等、観察によって把握するように努めています。	利用者の強い妄想出現といった困難事例も、チームワークにより観察や共有を密にし克服しており、いつの場合も利用者の立場にたった、本人本位の生活を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に家族からの聞き取りや、その後も本人や関係者から聞き取って、どんな暮らし方が本人にとって望ましいのか検討しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで生き生き暮らしていただけるように、自宅での生活リズムを大切にして本人本位の生活をして頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心地良いと感じて生活して頂くのが一番大切なことであるとの視点で、本人や家族、関係者の意見を入れた押し付けの無い、介護計画を心がけています。	職員には利用者の詳細が記録されたファイルを参考にしながら、尚不足や要求分を書いてもらい、毎月のユニット会議で確認し、無理のない介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況や心身の具合等、各自のファイルに細かに記録して、介護員同士の連絡を密にして本人の状態把握を共有しながら介護を行っています。毎月のユニット会議で介護計画の見直しに反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人から畑をお借りしたり、町内自主防災会に入れて頂いたり、生活の色々な場面で多くの地区の皆様の協力や支援を頂いて生活させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や以前からのかかりつけ医への受診など希望に添って、ご家族と連携して通院介助を行っています。新たな病気による通院も家族と相談協力して通院介助を行っています。	希望するかかりつけ医や協力医に受診する際、職員の通院介助と共に家族の協力を得ながら、常に連携もとれ、情報を共有している。協力医や歯科医の定期的な往診もあり、利用者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、法人から担当看護師が来て介護職員と情報交換し、一人ひとりの健康管理のアドバイスを受けて医療支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した病院には管理者・職員が状態把握に伺い、病院関係者との情報交換や退院後の相談に応じています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来ること、出来ないことの説明を本人や家族にしています。主治医を交えてその後の変化への対応も事前に話し合い、関係者がその方針を共有し準備しています。	「重度化した場合における対応に係る指針」を文書化し、利用開始時に利用者、家族等に説明している。状況変化に応じて関係者と話し合いを重ね、連携を図りながらチームとして方針の統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを活用しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の自主防災組織に組み込んで頂き、災害時に住民から協力していただける関係を築いています。	前年の避難訓練の反省点をもとに課題を見つけ、今年度の訓練を実施している。地域との良好な協力体制が出来ており、事業所を高齢者の避難や炊き出しの場所として提供している。各居室入口には避難済み確認の為にミニLEDブッシュライトを備え付けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議、ミーティングにて一人ひとりの対応を統一し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に注意を払っています。	日々の生活において困った部分を少なくし、不安にならないよう穏やかに生きがいをもちながら過ごしてもらう為に、職員は場面作りを心掛け、声掛けや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望等は家族にも協力を求めながら、実現できるように努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時で出来るだけ希望に添った生活が送れるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みにあった季節に応じた服を職員と一緒に選んでいます。また本人行きつけの理美容院に行けるよう支援したり、美容師に来て頂いたりして整容の支援をしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を考慮した献立で、食事に楽しみを持って頂けるようにしています。食材切り、盛り付け、配膳、皿拭きなど一緒に準備や片付けをしています。	法人内の管理栄養士による献立を基に、季節や自家菜園のものを取り入れたり、ユニット毎にアレンジされたオリジナルなメニューになっている。利用者の誕生日にはリクエストメニューにしたり、屋外での食事やマイ食器にする等の食が楽しみなものとなるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、水分摂取量を記録し、職員全員がその情報を把握しています。食事時声掛けし、バランス良く食べて頂けるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け見守りを行い、夜間は義歯洗浄剤を使用し衛生に努めています。歯科医の口腔ケア指導も受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者排泄パターンに合わせてオムツ、パットを昼夜別に使用し、適時に声掛け誘導することで、トイレで排泄できるよう支援しています。	トイレでの排泄を大切に考え、誘導のサインや声掛けのタイミングを見逃さず、失敗したときの羞恥心や不安への配慮がなされた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫、水分摂取量の把握、歩行の声掛けやDVDでの体操等により個々に応じた便秘防止に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望や体調に合わせて入浴をゆっくり楽しめるよう配慮しています。	ユニット毎に普通浴と特殊浴があり、希望に添った個別の対応をしている。拒む方への誘導タイミングや職員と1対1になった時の何気ない会話を楽しみながら、くつろいだ気分で入浴出来るように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身の状況に応じ、居室やソファで休息したり、安定した気持ちで眠れるよう支援しています。又、利用者へ合せたベッドの高さ、角度に調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指示通りの服薬が出来るように支援しています。一人ひとりの使用薬の目的、副作用等の確認理解をしています。又、毎日の記録により症状変化の確認をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	低下しつつある生活活動の支援を念頭に置き本人が達成感を得られるよう(園芸・掃除・散歩・編み物等を)一緒に行い生活意欲の向上に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外出する行事を多く計画したり、天気の良い日は予定外でドライブに出かけ楽しんでいきます。又、個人の買い物外出の支援を行っています。	買い物や墓参り等、希望する個別の外出にも対応している。車イスの方も含め、全員で四季を肌で感じながらドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自力で管理出来ない方には家族と相談し少ない金額を持って頂き、又、買い物時は本人より支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話番号を押せない方には、こちらで支援し話して頂いたり、郵便物や荷物を送るなどの支援も行っていきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や手作りのものを飾ったり外出した際の写真を掲示し話題づくりに努めています。	天井が高く広々としたホールを中心に周りに各居室があり、全体が見渡せるよう安全面に配慮された設計になっている。新しく入居されまだ慣れない方には、トイレの位置がわかるように、矢印をつける等、さりげない気配りもあり、共同生活の場と、個別の空間とに、その時の気持ちに沿ったそれぞれのスペースで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル、ソファー、ベンチ、カウンターがあり好きな場所で過ごしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品を持参して頂き、生活スタイルに合わせ使いやすい場所へ配置しています。	居室入り口には月毎に職員が交替で作った手作り作品が飾っており、オリジナルな表札となっている。自宅より使い慣れた物や思い出の物を2品以上持って来てもらおうと、担当職員を中心に計画中である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の解る表示や置き場所を工夫して混乱や失敗の防止に努めています。失敗した場合、その都度、職員で話し合い安心して自立した生活が送れるように環境整備に努めています。		